

チャペル週報

No. 5

2017.5.8 ~ 5.12

春季宗教運動特集号

何事にも時があり、
天の下の出来事にはすべて定められた時がある。
(コヘレトの言葉 3章 1節)



原田の森 ブランチ・メモリアル・チャペル (現 神戸文学館)

関西学院宗教センター

☆ チャペル・スケジュール ☆

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

5月8日(月) ランバスチャペルアワー① ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)
「インクルーシブ・コミュニティ構築に向けて」山本俊正(商学部宗教主事)
神 ランバスチャペルアワーに合流
経 混声合唱団エゴラド
人 嶺重 淑(宗教主事)
理 前川 裕(宗教主事)
聖和 聖書物語「ヨセフとゆめ」

5月9日(火) 大学合同チャペル「総主題:建学の精神」 10:20～11:20
西宮上ヶ原キャンパス 会場:中央講堂
「AI(人口知能)の発達と大学での学び」村田 治(学長)
神戸三田キャンパス 会場:VI号館101号教室
「校歌を歌う」田淵 結(院長)
西宮聖和キャンパス 会場:メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
「世の光(The Light of the World)」小菅正伸(副学長)

5月10日(水) 大学合同チャペル「総主題:建学の精神」 10:20～11:20
西宮上ヶ原キャンパス 会場:中央講堂
「校歌を歌う」田淵 結(院長)
神戸三田キャンパス 会場:VI号館101号教室
「AI(人口知能)の発達と大学での学び」村田 治(学長)
西宮聖和キャンパス 会場:メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
「私を耕す」舟木 讓(宗教総主事)

5月11日(木) 神 「震災を覚えて」礼拝40 神学部メガホンプロジェクト
文 宗教総部によるチャペル
社 "KG Spirit"とは⑤ 中道基夫(神学部長)
法 大宮有博(宗教主事)
商 混声合唱団エゴラド
国 English Chapel Linda Hearn (Retired Music Director)
総 グリークラブ
聖和 赤木敏之(関西学院幼稚園長)

5月12日(金) 院 Jeffrey Mensendiek(宗教センター宗教主事)
神 小見のぞみ(聖和短期大学宗教主事)
文 English Chapel Andreas Rusterholz(宗教主事)
人 山 泰 幸(人間福祉学部教授)
理 前川 裕(宗教主事)

◇ランバス早天祈祷会 ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

5月9日(火) 8:00～8:20 宗教運動のために 石森圭一(宗教活動委員長)

5月12日(金) 8:20～8:40 教職教育研究センターのために

小谷正登(教職教育研究センター長)

校歌を歌う

田 淵 結

もしあなたが就職活動の面接で「あなたの大学の校歌、歌えますか？」と聞かれたら、さああなたはどうか答えますか。今の就職活動のなかで、「あなたは大学で何をしていますか？」というよりも、こんな質問をする企業があったら、それはとてもよく大学の現状を知っている企業ではないかと思えますし、その企業に就職しても間違いのないのではとさえ思います。もしあなたが校歌を歌えるとしたら、それはあなたの大学生活がたくさんの成果と意味を持っているということの証しだからです。なんととっても体育会の部長をしていますと、試合に勝っても負けても、入部のときから卒業まで、繰り返し部員諸君と一緒に校歌を歌います。その歌声には喜びにあふれる感激もあれば無念の悔しさも込められています。「校歌が歌えますか？」と聞かれてその返事の仕方ひとつで、「ああ、この学生は大学生活が充実していた、何かをやってきたのだな。」ということが面接者にそのまま伝わります。是非、あなたの学生生活のなかで校歌を歌う体験をたくさん持って、あなたも関西学院の一員である“*We are Kwansai*”の大切なメンバーであることを実感していただきたいのです。

関西学院にはオフィシャルな校歌が四つあります。その全部が歌えるということも素晴らしいのですが、せめて入学式のときにお渡ししたCDを一度開けて聴いてみてください。そこに関西学院の歴史とそれを歌い継いでこられた先輩たちの思いを強く感じることができるでしょう。そのうちの代表的な一曲が『空の翼』です。関西学院の同窓であり「日本（の音楽界）に残した功績は限りない」（国本静三）と言われる山田耕筰の作曲、「日本の近代文学に偉大な足跡を遺した」（白秋記念館HP）北原白秋の作詞による作品としても注目されますが、この校歌が関西学院の歴史の中で、学院がそれまでの神戸原田校地から西宮上ヶ原の新キャンパスに移転し（1929年）、そこに関西学院大学を誕生させた翌年、1933年に山田耕筰自身の指揮によって紹介されたという記念碑的な校歌でもありました。一番から三番までの歌詞を通じて西宮上ヶ原キャンパスの風景を想起させながら、「輝く自由」「萌えたつ緑」「遙けし理想」と関西学院ならではの学びのあり方を示しつつ、そこに“*Mastery for Service*”というスクール・モットーを力強く歌う、まさに関西学院に学ぶことの豊かさを私たちに教えているのです。

しかしこの校歌は、数年後には太平洋戦争への歩みを進めた日本社会にあっては歌う

ことが憚られるようになり、1939年には創立50周年にあたって『緑濃き甲山（かぶと）』が「第二校歌」として歌われるようになりました。その時代、「自由」「理想」という言葉、そして敵性語であった英語によるスクール・モットーなどが許されない、そしてやがて関西学院の拠って立つキリスト教主義という建学の理念を主張することもできない時代が訪れました。

私たちがキリスト教主義大学としての関西学院大学で学び、その理念に触れ、校歌を共に歌う、それがあたりまえのようにできるということ、を、「あたりまえ」であるからこそ、それを大切に守っていかなければならない、ということ、を四つの校歌の歴史は私たちに語りかけているのです。

あなたが関西学院校歌を歌えるようになったとき、あなたはもっと関西学院の素晴らしさを感じていることでしょう。

(院長)

AI(人口知能)の発達と大学での学び

村 田 治

近年、人工知能、いわゆるAIの発達について様々な話題が上がっています。今後、人工知能の発達によって、社会はどのように変わっていくのでしょうか。それによって、皆さんの人生や学生生活に影響が出て来るのでしょうか。

ご存知の方もいると思いますが、オックスフォード大学のオズボーン博士や野村総研の研究によると、10年～20年後に現在の職業の約49%が人工知能によって置き換わるという調査結果が報告されています。

この調査結果の中身を詳しく見ますと、人口知能に置き換わらない仕事として大きく二つ分類できます。一つは人と人とのコミュニケーションが重視される仕事です。もう一つは人間としての直感や感性が求められるクリエイティブな仕事です。これらは、知識だけではなく、人間と人間の感性的なつながり、広い意味でのコミュニケーション能力や美意識を含む価値観が重要視されていることが特徴です。

他方、OECDが2030年頃の教育に求められる資質について研究中であり、2018年末には報告書が出される予定ですが、その中では、態度や価値観、さらには人間性などが重

視されています。さらには、教育の最終的な目標として、自律的に行動する能力を身につけること、言い換えれば、主体性が重要視されています。

このように考えますと、10年～20年後に人工知能が発達しようが、普遍的な能力として、自分の価値基準に裏付けられた主体的な行動力が大切であることがわかります。皆さんには、大学時代に、自分の価値基準を持つための基礎を身につけ、主体的に行動する姿勢を養ってほしいと思います。

もう一つ重要なことを申し上げます。必ず、複数のことを同時並行的に取り組んでください。これからの世界が必要としているのは、上でも述べましたように、クリエイティブな仕事です。創造性やイノベーションは、異なった分野の知識や経験が結合した時にしか生まれません。

繰り返しになりますが、大学時代に、複数のことを同時並行的に行いながら、徹底的に打ち込んでほしいと思います。これから、激動の世界が待っています。その荒波を乗り越える能力は、大学時代の過ごし方に決定的に依存します。是非目標を立てて充実した大学生活を送って下さい。

(学長)

世の光(The Light of the World)

—支援型リーダーのすすめ—

小 菅 正 伸

毎年、卒業に際してゼミ生に贈る言葉がある。「地の塩、世の光」という言葉である。これらは次の聖句から採ってきたものである。

“You are the salt of the earth; but if the salt loses its flavor, how shall it be seasoned? It is then good for nothing but to be thrown out and trampled underfoot by men. You are the light of the world. A city that is set on a hill cannot be hidden. Nor do they light a lamp and put it under a basket, but on a lampstand, and it gives light to all who are in the house. Let your light so shine before men, that they may see your good works and glorify your Father in heaven.” (Matthew, 5 : 13-16)

ここに引用したイエスの言葉は、「あなたがたは地の塩であり、世の光である。あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」と説くものである。

「塩」が果たす役割は大きい。われわれが生命を維持していくためには不可欠の存在であり、腐敗を防ぐ役割をもつ。また、「塩梅」という語が端的に示すように、食の味付けにも欠かすことはできない。しかも、塩は塩として存在したのでは、それが持つ役割を発揮することができない。あるものに溶け込み、それと一体になったときに、その本領を発揮する。なくてはならない存在として機能するのである。これは、本学のスクール・モットーであるMastery for Serviceの基盤をなす教えでもある。次に、「光」に関していうと、これは本学の校章（新月）に反映されている。月が太陽の光を受けて自らを輝かせ続けるものであるという自覚と、満月へと絶えず成長し、向上し続ける、という姿勢の象徴である。

「地の塩、世の光」を体現する者は、次のようなタイプのリーダーであると期待される。「善く士為る者は武ならず、善く戦う者は怒らず、善く敵に勝つ者は与わず、善く人を用うる者は之が下と為る。」（『老子』第68章）

真に実力がある人は戦わなくても勝てる。これが老子の言う「不争の徳」である。また、上手に人を使うためには、部下にやる気をもって懸命に課題に取り組んでもらえるよう「遜る」ことが重要である、と老子は説く。徒に指示・命令を下すと、反発されるだけで逆効果でしかない。リーダーであるためには、他の人からリーダーとして認められる必要がある。そうでない限り、リーダーとしての役目を果たすことができない。

このような考え方は支援型リーダーシップ（servant leadership）の考え方と親和性をもつ。「地の塩、世の光」を体現することこそがリーダーシップの本質である。良心に従い、より良い世界の実現へと導くことを自らのミッションとして課す支援型リーダーは、本学が率先して育成すべき人物像であろう。学生諸君には、是非、支援型リーダーを目指して、本学での「練達」に励んで欲しい。

（副学長・商学部教授）

私を耕す—“self-culture”と“self-sacrifice”—

舟 木 讓

4月1日ならびに3日に執り行われた入学式から、新入生の方々は早くも一月余りの時を過ごされました。大学という「自由」と「責任」が伴う場で皆さんは「主体的」に

どのような「選択」をして、今を過ごしておられるでしょうか。

関西学院大学に入学して一番戸惑ったのは、入学式から入学宣誓式までキリスト教の礼拝形式で進められ、その後も必修科目の「キリスト教学」、「チャペルアワー」という時間の設定があることを知らされ、さらに校歌も含めてしばしば出てくる“Mastery for Service”という翻訳も解釈も難しい言葉との出会いもあって、立て続けに「カルチャー・ショック」に見舞われたのではないのでしょうか。ただ、各学部で配布される『輝く自由』というパンフレットには、“Mastery for Service”という言葉の由来とそれを提唱された初代学長であり、第4代院長であるC.J.L.Bates宣教師の事が詳細に記されていることに気づきます。また本年はBates宣教師生誕140年という記念の年であり、改めて“Mastery for Service”が持つ意味に向き合う良い機会でもあります。そして、この意味を理解する鍵となる考え方が、この言葉が最初に語られた高等学部商科の学生への講演の中に出ています。

この講演の冒頭で、人生の理想として相互補完的に重要な“self-culture”と“self-sacrifice”という二つの印象的な言葉が出てきます。後者は比較的分かり易いですが、前者の“self-culture”という言葉は理解が難しいのではないのでしょうか。そこで“culture”の語源に遡ってみるとラテン語の“colere（土を耕す）”という意味であったことが分かり、ここから“self-culture”が直訳として「自らを耕す」という意味であると理解されます。

キリスト教の神話では人間は「土の塵」から創造され、神から「命の息を吹き入れられ生きる者となった」というように描かれています。「土」そのものでは何の影響も他に及ぼすことが無い存在ですが、それは耕すことによって「空気」が送込まれ、植物等を育てる命と力を得て来ます。私たちは、それぞれ生来与えられた様々な力（talent）がありますが、それを耕さなければ、本来の輝きを持つことなく、また他に何の影響も及ぼさない存在にとどまってしまいます。

大学という無限の出会いと自らを「耕す」機会がちりばめられている場で、良き出会いと共に、「私を耕す」日々を送り、それぞれの命の輝きがこの社会を照らすように成長されることを祈ってやみません。

(宗教総主事)

●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アブロースタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、大学院授業期間中の毎週木曜日にチャペルアワーを開催しています。(17:50～18:20 1405教室)

2017年5月主題:「建学の精神:C.J.L.ベーツ宣教師生誕140年を覚えて」

5月11日(木) Jeffrey Mensendiek (宗教センター宗教主事)

5月18日(木) 舟木 讓 (学院史編纂室長)

5月25日(木) 嶺重 淑 (大学宗教主事)

●ランバスチャペル・スーンコンサート

西宮上ヶ原キャンパスの正門に入って右手に見えるチャペル「ランバス記念礼拝堂」では、礼拝はもちろん、コンサートや式典、講演会、卒業生の結婚式などが行われています。5月に入ると関学を代表する音楽団体による恒例のスーンコンサートが開かれます。お昼休みのひととき、どうぞ耳を傾けてみてください。

5月8日(月) 関西学院大学混声合唱団エゴラド

5月17日(水) 関西学院聖歌隊

5月22日(月) 関西学院交響楽団 管楽アンサンブル

5月24日(水) 関西学院グリークラブ

5月25日(木) 関西学院バロックアンサンブル

5月29日(月) 関西学院交響楽団 弦楽アンサンブル

5月31日(水) 関西学院ゴスペルクワイア Power Of Voice

6月5日(月) 関西学院ハンドベルクワイア

6月7日(水) 関西学院大学応援団総部 吹奏楽部

いずれも12時50分～13時20分

ところ:ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原キャンパス)

主 催:宗教センター・宗教音楽委員会

●夕べの祈りatランバス～テゼの音楽とともに～

ろうそくの光を灯して、テゼの歌を歌いながら、皆でこころ静かに過ごす夕べの祈りのひとときです。どなたでもご参加ください。

第1回 5月25日(木) 18:30～20:00

第2回 6月29日(木) 18:30～20:00

第3回 10月19日(木) 18:30～20:00

第4回 1月11日(木) 18:30～20:00

ところ:ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

主 催:夕べの祈り準備会(学生有志)

協 力:関西学院宗教活動委員会

●オルガン音楽の泉 2017 Spring semester

パイプオルガンの響きに憩うお昼のひととき、どなたでもご自由にお楽しみください。

第17回 5月26日(金) 西山 聡子(本学オルガン講師)

第18回 6月1日(木) 渡邊 清人(First United Methodist教会オルガニスト)

渡邊知江美(Floral Heights United Methodist教会オルガニスト)

第19回 6月28日(水) 伊藤 純子(神戸国際大学オルガニスト)

第20回 7月7日(金) 坂倉 朗子(本学オルガン講師)

いずれも12:50～13:20[開場12:40予定]

ところ:関西学院中央講堂(125周年記念講堂)

主 催:宗教センター

●CD・DVDライブラリー

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDやDVDを備えています。本学学生及び教職員(学生証または身分証明書必要)であればどなたでも利用できますので、希望者は事務室までお越しください。

●使用済み切手収集にご協力ください

本学では日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)切手部の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますのでどうぞ吉岡記念館常設の回収箱にお届けください。

●盲導犬育成のためご協力をお願いします

関西学院宗教活動委員会は、目の不自由な方々の社会参加促進を願い、社会福祉法人「日本ライトハウス」の募金活動に協力しています。吉岡記念館事務室はじめ各学部カウンターに募金箱を用意しておりますので皆様の温かいご協力をお願いいたします。